喜寿を南太平洋上で

クルージングレポート（VOL.2）

山岸敏夫（11 組）

クルーズ船内行事はいろいろあり退屈はしない。乗客の自主企画や主催者側の催しもので活気に溢れている。毎日、船内新聞に翌日のプログラムが記載されており、各自好みの企画に参加する。毎日継続するものや１回のみなど様々。

私はラジオ体操、ダンス初心者コース、第九合唱などに参加。

第九合唱は１月５日の演奏披露で終了したが、120 名の男女がドイツ語で一部分であるが四部合唱できた。

ダンス初心者コースは盛況で女性が多い。中には上級者もおり、彼らのステップを大いに参考にしている。3 月末の下船までにはいくつか覚えられるだろう。

こういった活動は、私の場合、陸の日常では起きなかったであろう。

一方、平均年齢が 71 歳ということで、急病人が発生してヘリで搬送や治療のため寄港地に引き返すというハプニングもあるので、海外保険は MUST！

今回は東廻りに進むため、時差調整が頻繁で、私のスマホは船内時計、腕時計は日本時間にしている。

クルーズは要約すると、大きなホテルに大小さまざまな部屋があり、いろいろなことをしているうちにホテルが移動し、寄港地に着いて、現地で観光などができるというイメージ。とは言いながら、これは時間を自由に使える、つまり自身だけでなく近親者に気遣う必要がない環境が整ってはじめて実行可能となる。クルーズ船の乗客は余暇のある団塊世代が多く、インフレマインドの中、早めの予約は好調らしい。気になる費用のことは船会社の HP で参照されたい。

各社それぞれ早割があり、基本料金は部屋のタイプによる。リバークルーズも魅力で、毎日違う都市に寄港するので観光効率は良い。

昨年はフランスのソーヌ、ローヌ川クルーズをした。今年はライン、ドナウ川のリバークルーズも予約している。

この船旅で偶然の出会いがあった。第九合唱の企画リーダーが信州出身と聞き、私が「高校は？」と尋ねると、「え～！上田高校」、大学のグリークラブで歌っていたというので、「どこの大学？」「早稲田です」「え～!!」、高校も大学も直系の先輩後輩の関係と知り、お互いビックリした。９年後輩の原田和彦さん（74 期）は小諸市出身で茅野市に在住とのこと。

次頁に写真２葉

船内での第九合唱団

イースター島モアイ像前にて

（2026 年 1 月 12 日 記）

以上